|  |
| --- |
| 小特集　―〇〇〇〇の技術動向― |
| 題目 (MSゴシック, 24ポイント)[[1]](#footnote-1)\* |
| ― 必要ならば副題 (MS明朝，16ポイント) ― |
| 音響太郎，音　花子（音響大学）[[2]](#footnote-2)\*\* |
|  |

# はじめに

本ドキュメントは，Microsoft Word を用いて日本音響学会誌の「小特集」を執筆するためのテンプレートです。本ドキュメントを一通りお読みになった後に，上部の題目の部分だけを残して本文を消去し，「名前をつけて保存」した上で，原稿を入力して下さい。なお本ドキュメントは，Microsoft 365を用いて2022年に作成しました。

# 書式について

## 全体の書式

本ドキュメントは，用紙をA4縦置としてプリントアウトし，それをB5に縮小すると印刷イメージに近くなるようにしてあります。

本文は，片段22文字の２段組みです。また１ページあたり44行になっています。フォントはMS明朝11 ptを使用しています。

## 題目および脚注の書式

小特集の題目については，本ページの上部の表中の文字列を，所望の文字列に変更することにより作成してください。題目と著者には，それぞれの英語訳をWordの「脚注」機能によりつけてください。

なおこのテンプレートでは，上部の題目全体がWordの「レイアウト枠」に囲まれています。これにより，脚注が片段に納まるようになっています（レイアウト枠で囲まない段抜きの表の中で脚注を挿入すると，出力される脚注も段抜きになってしまいます）。

## 節と小節の書式

節の題目（例：2. 書式について）と小節の題目（例：2.1 全体の書式）には，それぞれ「見出し１」と「見出し２」のスタイルが割り当ててあります。スタイルを適用すると，ディスプレイ上は行の左側余白に▪印がつきますが，これは印刷されません。なお，このテンプレートでは，小々節に相当する「見出し３」まで用意してあります。

スタイルを適用するためには，まず題目や副題の文字列を普通に書きます（節の番号は，自動的につけられるので不要です）。その文字列の行にカーソルを移動した後，「ホーム」→「スタイル」→「見出し１」→「設定」という操作を行います。また，別の箇所の節を書式ごとコピーペーストすることで，連番の節を新設することもできます。

# 図や表の挿入

本文中に図を挿入する場合の例を**図1**に示します。Wordにおける図の挿入方法は，予めレイアウト枠やテキストボックスでスペースを確保し，その内側に図を貼り付ける方法の他，行内に直接挿入する方法などがあります。日本音響学会誌では，特定の図の挿入方法を指定しませんので，適宜扱いやすい挿入方法をお使いください。このテンプレートでは参考までに，行内に直接挿入する方法を紹介します。

* 本文中の図を挿入したい箇所にカーソルを移動します。挿入箇所の前後を改行しておくと，本文のレイアウトへの影響が少なくなります。
* 「挿入」から図形や画像を選択して挿入します。「文字列の折り返し」は「行内」になっています。
* 挿入した図を右クリックし，「図表番号の挿入」を選択します。キャプションの先頭に表示するラベルは「図」を選択します。選択肢にない場合は「図」を追加します。
* 「図表番号」にキャプション本文を入力します。
* キャプションを挿入する位置（図の上）を指定します。
* 必要に応じて，図やキャプションを「中央揃え」します。



図 1 　図の挿入の例

上記の挿入方法では，本文の増減に従って図の表示箇所も変わることになります。「文字列の折り返し」の「行内」を別のオプションに換え，図の「レイアウト」でアンカー使用の選択や本文との位置関係について設定することで，挿入位置を正確に設定することができます。なお，学会誌掲載用の版組は専門業者に依頼します。最終的な図の掲載位置は，入稿時と異なる可能性がありますので，ご了承ください。

次はWordで表を挿入する手順を紹介します。表も図と同様の手順で挿入・場所決めをすることが可能です。

* 挿入タブを選択します。
* 表の挿入を選択します。
* 表の行数と列数を指定します。
* キャプションを挿入する位置（図の下）を指定します。

表 1 　表の挿入の例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 刺激音番号 | LAeq (dB) | 継続時間 (ms) |
| 1 | 56.3 | 365 |
| 2 | 33.8 | 1224 |
| 3 | 84.3 | 553 |
| 4 | 43.8 | 33 |
|  |  |  |

なお，表と本文との間に適当なスペースを空けるための簡単な方法は，表１のように表の下に空の行を追加しておくことです。また，図表番号を本文から参照できるように追加することもできますが，これらの手順については各種マニュアルやHPに譲ります。

# おわりに

前述しましたように，本テンプレートはあくまで刷り上り原稿の目安を与えるものであり，掲載時の組版を完全に予想するものでないことをご了承ください。

このテンプレートについて，改良すべき点やご要望などがあれば，今後の参考にさせていただきますので，学会事務局までご連絡くださるようお願いいたします。

# 文　　献

1. S. S. Stevens, “Mathematics, measurement and psychophysics,” in Handbook of Experimental Psychology, S. S. Stevens, Ed. (Wiley, New York, 1951).
2. 難波精一郎, 桑野園子, 音の評価のための心理学的測 定法（コロナ社, 東京, 1998）.
3. J. B. Allen, “Short term spectral analysis, synthesis, and modification by discrete Fourier transform,” IEEE Trans. Acoust. Speech Signal Process., 25, 235–238 (1977).
4. 近藤公久, “有意差検定のしくみから考える—平均と分散から再確認,” 音響学会誌, 68, 397–402 (2012).
5. 上猶優美, “室内音環境が知的生産性に与える影響—拡散的思考と音環境の関係性について,” 音講論集, 1037–1038 (2009.3).

1. \* Title of the article. – Subtitle will be here – [↑](#footnote-ref-1)
2. \*\* Taro Onkyo, Hanako Oto (The University of Onkyo) email: hanako@u-onkyo.ac.jp [↑](#footnote-ref-2)